



笑顔で 生き生きと 主体的に 学ぶ

校長 鹿倉 朋宏

暖かな春を迎え、川沿いの桜は美しく咲き誇り、木々の芽吹きが映える希望あふれる季節となりました。本校は、平成28年度で開校6年目を迎えます。

今年度は、新たに小学部13名、中学部19名、高等部35名の仲間を迎え、小学部83名、中学部65名、高等部122名、計270名の子どもたちが共に学ぶことになりました。始業式で1学年進級した子どもたちは、新たな気持ちとこれからの学校生活への期待に満ちた表情でスタートしました。

また、入学式では小学部、中学部、高等部の新入生67名の新たな仲間も新たな学校生活への期待にあふれた引き締まった表情でした。それぞれの学部の子どもたちが本校のかけがえのない仲間の一員として、生き生きと学び、活動して大きくはばたいてほしいと願っております。

教職員はこのたびの人事異動により、柴原正明教頭が大宮北特別支援学校に異動したほか、6名が退職及び任期満了、23名が転出となりました。かわって、大澤 充(たかし)教頭、他28名の職員が新たに着任いたしました。「チームはばたき」の新たなメンバーとして、児童生徒の確かな成長を願い、保護者の皆様や地域の方々とともに努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

学校教育目標「笑顔、かがやき、そして未来へ」についてあらためてお話いたします。「笑顔、かがやき」とは、子どもたち一人一人が笑顔でかがやけるようにとの願いです。子ども自身がみずから意欲的、主体的に学ぶことができるようになると楽しくなり「笑顔」になります。「笑顔」が増えると気持ちもさらに高まってがんばるようになります。「頑張る」には「顔晴る」と当て字があるようです。できる経験を積み重ねて晴れやかな顔で学ぶ姿が「かがやいている」ということです。もちろん進歩や成長には厳しさや苦しみを乗り越える場合もあります。そんな時も子どもたちが果敢に乗り越えられるように支援していくのが教師の役割です。

「未来へ」とは、未来社会へ大きく羽ばたけるしっかりした「心を育てる」ことです。教育の最終目標とはこれに尽きると思います。様々な学習活動や仲間とのふれあいを通じて、自分に自信を持ち、人と関わりながら社会で自立できる心を育てることです。

子どもが生き生きと学べるためには、一人一人の特性を十分に理解し、主体的に学べるような手立てを保護者の皆様との合意形成のもとに適切に整えていく必要があります。今月から施行される「障害者差別解消法」における「合理的配慮」とはまさにそのことでもあります。もちろん特別支援教育では従来から実施していたことですが、学校のみならず社会全体に法的に義務づけられたということで、共生社会に向けた大きな一歩といえます。本校教職員一同もあらためて意識を高く持ち、質の高い教育活動を進めていきます。

本校は開校して5年間という基礎固めを経て、これから10周年という大きな節目に向けて大きく成長、開花していく時期であるにとらえています。保護者や地域の皆様方とともに歩む特別支援学校として一層の発展を目指してまいります。よろしくお願いいたします。